

令和元年度 いなべ在宅医療・介護連携研修会を開催しました

●日 時：令和元年11月16日（土）

14：30～16：30

●場 所：三重北医療センターいなべ総合病院

2階 会議室

●参加者：99名

※研修会はいなべ医師会との合同研修会

として開催しました。



☆司会：守山委員

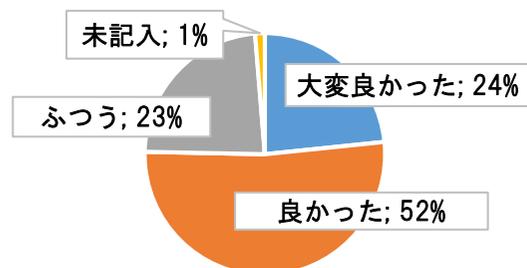
（いなべ訪問看護ステーションのぞみ）

1. 説明*『介護認定審査会における主治医意見書について』

説明者：東員町長寿福祉課 山下哲郎 氏

介護保険の流れや介護認定審査会、主治医意見書の利用方法や特記すべき記載、審査会で求められるポイントについて説明がありました。

主治医意見書について



2. 講演*『病院？ホスピス？それとも自宅？

～病人は何を考えどう過ごしているのか～

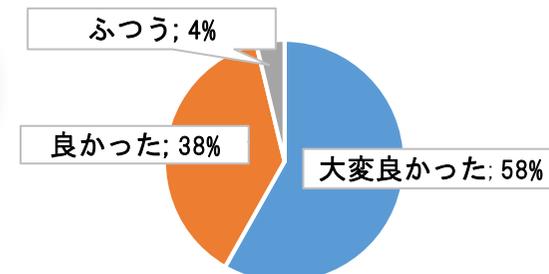
講師：しんじょう医院 院長 新城拓也 先生

“医療が患者のためになっていない！”という思いから、神戸市で在宅医療専門診療所を開院。先生のこれまでの葛藤と、その都度出会った本を通して葛藤を乗り越えてこられたお話を聞くことができました。

“医療者と患者の未来像が一緒であることが大事！”自宅で生活することの意義と在宅医療の現状を教えていただいた講演でした。

「本当のプロはたった1回、たった1人のための治療やケアを創造できる人です。」新城先生のこの言葉を目標に、いなべ地域の皆さん頑張りましょう！

講演内容について



【アンケート結果より】

- ・認定調査の際、看護師として正確な情報を細かく伝える必要性を理解できました。
- ・主治医意見書の特記事項に関して、今まで意識していなかったのが重要性が改めて理解できた。
- ・特定疾患も、事故による脳疾患などは特定疾患にならないことを教えていただきました。

【アンケート結果より】

- ・先生のこれまでの壁、その壁を乗り越えるに至った考え方を聞かせていただくことで、人生の終わり方、死との向き合い方・・・生き方を考える機会となりました。
- ・病人の心の動きや、病人と医療人との向き合いなど、今までの概念を変えた内容であり、とても考えさせられた。
- ・医療・看護の話だけにとどまらず、その人らしく生きる意味、生きがいとは何かという所について深く知る事ができた。